

小野川右俣

一九七九年七月二十二日

◆天気(曇)

五時半、テント場を出発。不動滝まで一〇分少々。不動滝の左岸を登り、奥の滝まで続いている道に出る。少し行くと沢が二俣に分れていて、そこから右俣に入る。六時一〇分。ナメが続きすべりやすい。沢は平坦でだらだらと続く。六時二〇分左岸から小沢が入る。六時四五分石がひっかかった様な二メートル程の小滝がある。六時五五分、奥の滝に出る。二〇分ばかりとあり。右俣では唯一の滝である。上部はすぐナメが続く。一〇分程かかって左岸を捲く。奥の滝を過ぎると明るい河原が続ぎ、天気も良くなってくる。七時四五分、沢は右にカーブしながら、小野川の部落に続く林道に出る。その橋で小休止をして再び出発。デコ平の脇で沢は再び分れ、水量の多い右沢に入る。八時二〇分、左岸に小沢が入り、あとは何の変化もない。平坦な沢がいくらか勾配がついてきたが、沢はもう水量も少なく、ヤブもかぶさってきた。九時一



小野川・奥の滝

〇分、遡行を終了し、下降を開始する。下の橋までもどり、そこから林道をテント場へ向かう。

(記・)

[タイム]

幕营地五…三〇―不動滝―二俣六…〇五―奥の滝六…
五五〇七…一〇―橋七…四五〇七…五五―折返し点九…
二〇―橋一〇…三五〇一…三〇―幕营地一二…三五

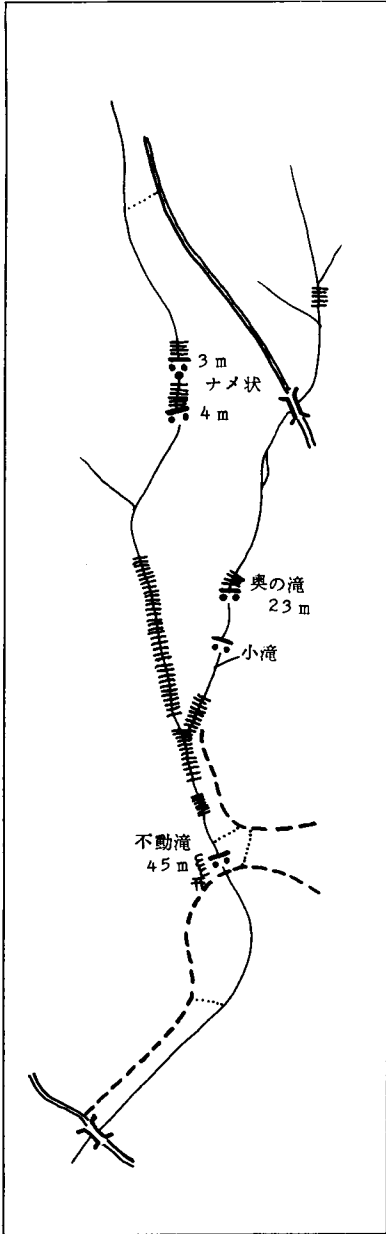
小野川左俣

一九七九年七月二十一日
 一〇時三十分

登山日和の快晴である。今日は二パーティ沢に入る。我々のパーティは小野川左俣を廻行し左側の無名沢の下降である。登山道をしばらく歩き途中より沢に降りる。沢の冷たい水で顔を洗うと気持ちが引き締まる。コケが多くすべりやすいので注意して歩く。不動滝はこの沢唯一の滝といってもよいだろう。直登は不可能なので左岸

を捲くと登山道に出た。しばらく進んでから沢に降りる。あとはナメと小滝がしばらく続き、核心部を終わる。傾斜がなくなってきた所で廻行終了とし、右側の廃道にある。
 (記・一 大)

(タイム)
 出合五・一五―不動滝五・四五―二俣六・一〇―沢終了七・五五



小野川 (作図: 山形県立自然博物館)